

平成29年度 調布市立調和小学校 学校経営計画

学校教育目標
 豊かな心のハーモニーを奏でる学校
 ○心もからだも健康な子（心とからだのハーモニー） ○よく考え、学び合う子（学びのハーモニー） ○力をあわせてやり抜く子（協力・協働のハーモニー）

目指す学校像(ビジョン)
 「共に生き、共に学び、夢と誇りを持ち、一人一人が伸びていく学校」を統合理念として学校のめざす姿とした。一人一人の子どもの個性や能力を最大限に伸ばし育てることが学校教育の役割である。「私も必要とされている」「一緒に伸びていこうとする仲間がいる」等、このように子どもたちが実感できる学校だったら、毎日を楽しむに学習や生活に意欲をもつことができる。また、「私は、今日～ができるようになった」「初めて～を知った」等伸びる喜びがある学校だったら、子どもの目は、いつも輝くことができる。そのような学校を創るために、以下の4点をめざす学校像の柱とする。（1）命を大切にし、他を思いやることのできる学校（豊かな心の育成）（2）児童一人一人が自らの良さに気づき、すすんで学ぶことのできる学校（確かな学力の育成）（3）すすんで運動に取り組み、心身ともに健康で安全な学校（健やかな体の育成）（4）地域に開かれた信頼と安心のある学校（学校を開く）

本校の現状と課題
 明るく素直で子供らしく、毎日の取組により挨拶ができる児童が多くなってきた。ほぼ、全体的に落ち着いた学校生活を送ることができている。しかし、平成28年度の児童同士のトラブル発生率が高かった。友達の良い気持ちを察する力に課題がある児童がいる。授業を通して、友達と対話する力を培ってきている。また、縦割り班活動で、高学年のリーダーシップを発揮させる体験を通して、コミュニケーション能力を身に付けるようにしている。各クラス数名、集団生活に適応することが難しい児童が存在する。特別支援コーディネーターを中心とした組織的対応により、支援を必要とする児童について、個別指導計画に基づいた指導の工夫や学校生活における合理的配慮の質を高めていく対応をすることで、概ね落ち着いた生活ができていく。学力面では、学力テストは市内では高かった。平成28年度の校内研究の成果があり、どのクラスでも問題解決学習の手法やペア学習を取り入れた指導が行われるようになってきた。児童主体で対話がある授業がある程度身に付いてきた。しかし、体力テストの結果は、どの学年も平均に達することができなかつた。今年度は、校内研究を体育科とし、体育授業の改善を図り、運動好きな子供を育てることで、体力の向上を図ってきたい。保護者は、概ね学校に協力的な方が多い。地域は極めて好意的で地域の学校として大切にされている。地区協議会が地域の中心となり、学校に協力的である。また、健全育成等の活動が活発であり、地域行事をたくさん計画してくださり、その熱い思いから児童の多くはその行事に参加している。

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標 ※ 数値目標が可能な項目について設定する
学 力 向 上	○平成28年度に研究した、研究主題「思考力・表現力が高まる指導の工夫」の研究活動を通して培ってきた算数科の問題解決学習で身に付けた、主体的・対話的な授業スタイルを教員はもとより、すべての児童に定着させていく。他教科でもペア学習や集団討議を行っていく授業をさらに広めていく。	○算数科の問題解決学習を中心とした、主体的・対話的で深い学びのある授業が展開されるようにする。また、他教科にもそのスタイルを広げていく。	○年3回の授業観察や毎日の短時間であるが、校内授業観察で気が付いたことを教職員に伝えていく。教えるべきところは、教える。児童に考えさせるところは考えさせる。なるべく、1時間内にペア学習を取り入れる。授業のまとめをして、本時で学んだことや友達の発表で良かったところを発表させる等、観察する視点を明らかにしていくことで、改善を図る。 ○授業改善プランの改善を繰り返しながら、基礎・基本を定着させるための繰り返し学習、体験を通した学習など指導の工夫・改善をすすめる。また、学力に関する調査による児童の実態の把握に努め、授業改善を図りながら、自ら学ぶ意欲や主体的な学習の仕方を身に付けさせ「確かな学力」を身に付けていく。	○管理職による、授業の見取り、指導、改善を図っていく。【1時間の授業内に、主体的な活動、対話的な活動（ペア学習・集団討議等）、深い学び（意見の交流等を通した課題解決）】がある授業かを見取り、教員に指導していく。（年3回） ○授業改善プランが、成果をあげているかを教員と一緒に検証をしていく。有効なプランは、引き続き行い、有効性が低いプランは、別なプランに差し替えていく。
	○一人一人に応じた指導の徹底を図り、どの子供も「今日～ができるようになった」「初めて～を知った」という実感がもてるような学校にしていく。そのためには、日頃より、子供一人一人の考え方や学習状況を観察し、伸びを見逃さず賞賛していけば、子供の意欲が増していく。1人1人の成長を見取ることを大切にしていこう。	○特別支援コーディネーターを中心に、指導計画表を作成し個々に応じた指導ができるような体制を整えていく。学習支援室を活用した、教員と児童の1対1の指導を充実させていく。さらに、日々の授業において、児童の発言や書かれたことを大切にしながら児童理解を図っていく。	○授業中の児童の実態を把握するために教師は座席表などを使って、子供の考え方や思いや願いなどの見取りの充実を図る。また、子供の伸びや変化を見取り、それを記録していくことを全教員が行っていく。 ○個別指導教室の有効活動を図るため、日頃より授業観察を行い、児童の実態に関する共通認識をもつ。必要に応じて、関係諸機関や保護者と相談をしながら、どのような教育がその子供に有効であるかを探っていく。	○指導記録を週案等に記載していく。子供の変化について、担任だけでなくのがわ学級担任、専科教諭、管理職等も共通理解できるようにしていく。 ○校内委員会を中心に、5月までに、学習支援室利用状況表とスクールサポーター・カウンセラー・学習ボランティアの活動状況表を作成する。また、毎月必要に応じて、学習状況表を新しいものに代えていき、子供1人1人に応じたサポート体制を確立していく。また、教員内での共通理解を図っていく。
健 全 育 成	○人権教育を基調とし、生命尊重の精神を培うとともに、広く人間を愛し、良いものを受け継ぎ、徳・知・体のバランスの良い発達を大切にしていこう。「調和の心」を培う。また、豊かな人間性や社会性の育成に努める。特に思いやりの心や命を慈しむ心をもつ児童の育成に指導の重点を置き、「生きる力」を育む。	○縦割り活動を充実させ、各学年が仲良く過ごせるようにしていく。特に6年生は、下級生の模範を示し、思いやりの心を示せるように様々な活動を通して実践をしながら下級生に示していく。このことで、「よいもの正しいものを受け継ぎ高めること」「徳・知・体のバランスのよい発達」を目指していく。	○年間を通して毎朝挨拶運動を行う。縦割り班活動を通して、良いもの正しいものを受け継ぎ高めていく活動を大切にしていこう。今年度は、縦割り班をさらに充実させるために、1班の人数を減らし、どの児童にも班員としての自覚をもたせる。特に、良い行いについては、全校の前で紹介していく。また、職員室の黒板を使い、児童の成長やよい取組について、教職員の中での情報共有をしていく。課題については、教職員に伝達し、確実に指導を行っていく。必要に応じては、校長から全体や個人に対して指導を行っていく。 ○児童自身に学級内・学校全体の生活指導上の問題点を目を向けさせ、改善する機会や行動化できる生活指導を行い、学年組織や学級組織内ですぐに取り組み解決できるようにしていく（2週間に1度の学年朝会等を活用していく）。また、今年度から、児童会を委員会活動に設置していく。学校全体での課題を児童会を中心とした中で、解決させていく。	○教職員だけでなく、学校に来校した来賓や保護者に対してもすすんで挨拶できる児童を育てていく。（9割が目標） ○縦割り班活動を通して、高学年が下学年の面倒をみることで、リーダーシップを発揮する（行動観察） ○児童からの学校改善や学級改善のための意見を出させる。それを代表委員会や学級会で取り上げさせ改善について話し合い、行動化させていく（行動観察）。
	○いじめや不登校などに適切かつ迅速に対応できるよう教師一人一人の教育相談機能や生活指導部を中心とした指導体制の充実を図る。また、いじめ対策委員会を中心に相談機関と連携しつつ、個別支援を充実させ、個に応じた指導を行う。	○いじめを素早く見抜き迅速に対応するため、アンケート調査やカウンセラーとの面談をする。4～6年生全員面談の他に、1対1のカウンセリングを行い、その結果を管理職や担任と共有する。課題がある児童については、複数回面談を行う。また、月に1回アンケート調査を行い、その結果から必要に応じて管理職と児童の面談を行う。	○校内教育相談機能を充実させるために、校内委員会で情報のあがった児童に対して、特別支援コーディネーターを中心に、その実態に応じて、カウンセラー等の面談や管理職との面談、時には関係諸機関による授業観察や面談なども含めて、実態に即した対応をしながら子供の心のケアをしていく。 ○家庭の事情で、欠席しがちな児童が複数存在する。担任との連絡を確実に行わせていく。必要に応じて、管理職と担任との家庭訪問も行っていく。また、児童の特性を理解してもらいたいことから、保護者面談を行うケースもあるが、丁寧に対応していく。	○校内委員会を月に1回以上開き、児童一人一人の現在の様子についての共通理解を図る。また、カウンセラーからも子供の見取りや聞き取りの様子を報告させていく。 ○運営委員会で、子供の様子を報告させる。いじめもその中で取り扱っていく。また、いじめ対策アンケートを月1回とり、状況を把握したり、必要に応じて、聞き取りを行う。いじめが疑われるときは、指導を入れていくのと同時に、関係諸機関との連携を図る。 ○保護者面談や家庭訪問など様々な方法を取り、30日以上欠席をなくしていく。難しい場合は、関係諸機関と早めに相談していく。
健 康 ・ 体 力 つ く り	○平成28年度の体力テストの結果を受け（全学年とも平均より低い）授業改善を図りながら、体力向上を目指す。	○体育科の授業改善を進めながら、体力向上を目指す。すすんで運動する児童を育成するために、年間6回の授業研究と講師の講演会を通して、校内研究の実践を積み重ねながら高めていく。	○体育の指導技術の基礎・基本を教員が学んでいく。めあて学習についての理解を深め、すすんで運動する児童を育成していく。 ○体力向上を図るための取組（サスケタイム等）を意図的に組み入れていく。また、外で遊ぶことを奨励していく。	○体育の授業を充実させ、体力の向上を図っていく。ポイントは、めあて学習・児童同士の教え合い・運動量・教師が一人一人の児童の見取り・安全性を中心にしていく。 ○昨年の体力調査と今年度の体力調査の比較をし、伸びや落ち込みを検証していく。具体的にどのような運動を取り上げて行けば良いのかを体育部を中心に検討していき、校内全体で実践していく（体力テストの結果）。
	○食物アレルギー等個々の特性に応じた、安全で確実な給食や調理実習等を実施していく。同時に食物アレルギー反応に対する危機管理できる体制を整える。	○食物アレルギーやてんかん等、個に応じた対応方法を教職員で確認していく。その際、保護者との面談を行うようにしていく。	○年度初めの「食物アレルギー面談」で管理職・栄養士・養護教諭・調理員・担任との面談を行う。その際、「学校生活管理指導票」「保健調査票」「緊急時個別対応カード」「食物アレルギー個別取り組みプラン」を提出してもらい、確認を行う。年間3回の食物アレルギー研修を行い、対応方法の教師の中での共通理解を図っていく。 ○水泳指導が始まる前、てんかんがある児童の保護者と面談を繰り返し、見守りをするための具体的な方法を探っていく。熱性痙攣のある児童についても主治医や校医の判断をあおいでいく。	○学校生活管理指導票や保健調査などの活用や保護者との個人面談等を確実にを行い食物アレルギー事故を一件も起こさない。 ○病気や怪我をした児童の対応をする。首より上の怪我や大きな怪我の場合は、管理職の指示の元に、学校が医者に連れて行き、保護者に引き渡す。軽い怪我の場合でも確実に担任より怪我の程度を知らせ引き渡す。
保 護 者 ・ 地 域 と の 連 携	○学校と家庭や地域社会との連携をさらに深め、地域社会の人々や文化に触れる機会を通して、地域の一員としての自覚を促すとともに、相互の連携を深める交流事業を通して、さらに開かれた学校づくりに取り組む。	○調布市防災教育の日と地区協議会主催の防災訓練を1年間の地区協議会が相談してきた取組を実証する場としていく。そのために、毎月の地区協議会と学校の緊密な連携を図っていく。	○調布市防災教育の日の取組（平成29年4月22日実施）では、繰り返し呼びかけてきた成果があり、昨年度に比べ、保護者の参加態度に向上が見られた。避難所は、避難してきた人が自分のことをみんなのためにやるのが大切であることの意識をさらに高めていきたい。毎月1度の地区協議会との連絡会議を大切に、児童や地域の方々のいのちを守れるように努力していく。	○調和小学校避難所運営マニュアルの実践・検証を行う。 ○さらに、保護者に、避難所運営の大切さや1人1人が避難所を支えていくという意識をもってもらえるように話しをしていく。
		○地区協議会や健全育成等の数多くの事業に、教員がなるべくたくさん参加するようにしていく。	○年間での健全育成委員会行事（ジュニアサブリーダー、ソフトボール大会、一泊キャンプ、一年生を迎える会、お楽しみゲーム大会、もちつき大会、耐寒マラソン等）地区協議会行事（サマーフェスタ、広場コンサート、防災訓練、野川クリーン作戦等）SHC行事（地域運動会、SHCコンサート等）PTA（スポーツ大会、20kmナイトハイク）各自自治会（夏祭り等）等に教員も参加していく。	○管理職は、できるだけ全てに参加していく。教員は、1人2～3回程度参加していくよう話しをしていく。 ○学校行事に、なるべくたくさんの地域・保護者の方々の参加をお願いしていく。PTA運営委員会、月1回の地区協議会の会議、月1回の健全育成の会議等をお願いしていく。
特 色 あ る 教 育 活 動	○開校以来受け継がれている『調和の心』がある。具体的な姿としては、「良いもの正しいものを受け継ぎ高めていく心」「徳・知・体の調和のとれた発育・発達」が具現化できるように指導を重ねていく。	○異学年交流を盛んにしていこう、仲の良い学校を目指し、高学年のリーダーシップを発揮させていく。 ○図書館を有効利用していこう、読み聞かせ活動の充実を図る。	○たてわりタイム（年11回）集会活動（縦割り集会3回、縦割り準備集会3回）縦割り大集会、挨拶・奉仕運動（班持ち回りで、挨拶運動と学校周辺清掃を実施、縦割り班交流給食）等を通して、縦割り活動を定着させていく。1班の人数を減らし、どの児童も活躍でき、特に当学年の体制を整える。 ○年2回（6月、11月）の読書月間に、読書貯金（目標の冊数・ページ数を決め終わりには、振り返った感想を書く）やおすすめの本紹介カードを書く。また、読書月間のお知らせを保護者に出し、家庭での読書への理解と協力を呼びかける。	○縦割り班活動の成果を児童からの聞き取りや行動観察やアンケートから明らかにしていく。 ○おすすめの本紹介カードを掲示したり、図書担当より推薦する本を紹介する。
		○地域と連携した伝統・文化理解教育・地域環境を活用した自然体験活動の推進を図る。	○学校農園の活用（2年生）、野川の活用（3年生）、琴を取り入れた学習（4年生）、墨アート（5年生）、和太鼓（6年生）を予定している。	○体験活動を楽しみ、地域のよさや地域の人の温かさ、芸術の素晴らしさ、楽器の演奏を通しての感動等を体験し、感謝の気持ちや体験の楽しさ等をお礼の会に招待したりや手紙に書いたりして振り返る。